



2025 年度
第 38 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
ジムを一日使ったんだけど
「1 ヶ月」ってこと…
公取委、体育施設の不公正
約款を是正



2
忠清北道知事
警察に事情聴取…
地域体育界から 1100 万
授受の疑い



3
「生理途切れが正常？」
女性スポーツ界の
誤った偏見
崩壊しつつある



4
選手たちの
「反則」が
むしろ推奨される
運動大会？



5
いつも口だけで
韓国野球の危機です…
→『大人』が
本当の問題だ



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



*

01 朝鮮日報 2025. 10. 19**ジムを一日使ったんだけど「1 ヶ月」ってこと…****公取委、体育施設の不正約款を是正**

公正取引委員会が中途契約解約を禁止したり会員権払い戻し時に既存利用料金を過度に控除するなど 20 のチェーン型体育施設業者(ヘルス・ピラティス・ヨガ)の不正約款を是正措置したと 19 日明らかにした。

最近、健康に対する大衆の関心度が高まり、ジムやピラティス練習場などの利用率が高まっているが、利用過程で契約解除や違約金算定などに関連した消費者の不満が持続的に発生している。これに対し公正取引委員会は、消費者被害救済の受付が多く行われた 20 のチェーン型体育施設企業(ジム 16 カ所、ピラティス 2 カ所、ヨガ 2 カ所)の昨年の契約書を対象に不正約款審査を行った。

公取委の審査結果、今回是正措置された不正約款の類型は大きく 4 種類だった。まず、一部の体育施設業者は、行事期間やイベント価格で締結した会員権や譲渡を受けた会員権に対しては、中途契約解除や払い戻しが不可能だと規定していた。

公正取引委員会は「体育施設業は 1 ヶ月単位や多回契約がなされ訪問販売法上の継続取引に該当する」として「継続取引の場合、いつでも契約を解約できる法定解約権があるが、これを禁止するのは不公正だ」と判断した。これに対し体育施設業者らは会員権の種類を問わず払い戻しができるよう約款を是正した。また、一部の体育施設業者は消費者の都合で契約を解約する場合、1 日を利用して 1 ヶ月と見なし、利用料を算定した。カード決済後、代金を払い戻してもらった時も違約金の他にカード手数料などを控除すると規定したりもした。しかし、訪問販売法などによると、このような行為は違法の素地がある。実際の利用期間より過度に利用料算定がなされ、カード決済会員を現金決済会員に比べて不利に待遇することであるためだ。各企業は公取委の指摘を受け、このような約款を削除した。

その他にも施設内の安全事故や物品紛失に対して事業者責任を免責する条項も不正約款として指摘された。公正取引委員会は「安全事故原因に事業者帰責事由があるならば範囲内で賠償責任を負担することが妥当だ」とし、企業等は事業者の帰責があるならばその範囲で責任を負うよう約款を是正した。その他にも会員権解約相談可能日付と時間を特定時刻に限定する内容の不正約款も是正措置された。

出典：https://www.chosun.com/economy/economy_general/2025/10/19/WYW3VPZDENDX5C70GAEAJMDIUM/

02 KBS News 2025-10-19**金ヨンファン忠清北道知事、警察に事情聴取…****地域体育界から 1100 万ウォン授受の疑い**

地域体育界の関係者から 1 千万ウォン余りを授受した疑惑を受けている金ヨンファン忠清北道知事が警察に召還され調査を受けています。

金知事は19日午前9時45分頃、忠北警察庁反腐敗犯罪捜査隊に被疑者身分で出席しました。

金知事は「(現金入り封筒授受)疑惑を否認するか」という取材陣質問に「行ってよく説明してくる」という言葉だけを残して調査室に移動しました。

金知事は6月26日午前、忠北道庁道知事室でユン・ヒョヌ忠北体育会長から500万ウォンが入った封筒を授受した疑惑を受けています。

警察は、ユン体育会長がユン・ドゥヨン忠北バレーボール協会長と事前に250万ウォンずつ金を集めており、当日、日本出張の途につく金知事に旅費の名目でこれを渡したとみています。

金知事は4月、米国出張を控えて清州のあるカフェでユン体育会長とユンバレーボール協会長、イ・ジェス忠北ローラースポーツ連盟会長に会い、彼らから現金600万ウォンを受け取った疑惑も受けていることが把握されました。

警察は彼らが金知事に渡すために事前に200万ウォンずつ金を集めた状況を確認したといっています。

警察はこれまで確保したこの事件の被疑者らの供述をもとに、金知事に金銭を授受した事実があるかどうかを追及するものとみられます。

金知事は捜査初期からメディアなどに金品を授受したことはないと言明を否認してきました。

出典：<https://news.ikbc.co.kr/article/view/kbc202510190013>

03 スポーツ京郷 2025-10-13

「生理途切れが正常？」女性スポーツ界の誤った偏見、崩壊しつつある 「エリート選手なら生理がなくてもいい」



米国のサイクリスト、ベロニカ・ユアーズ（31）は、2022年の健康診断の結果を見ながら、医師が言った言葉をまだ忘れられない。ホルモン数値がほぼ底をついているにもかかわらず、医療スタッフはこれを問題として見ていなかった。彼女は12日、グローバルスポーツ専門メディアのディアスレティックとのイン

タビューで「当時は『女性が生理を止める時がフィットネスの頂点』という言葉信じた」と回想した。そんな考えは長続きしなかった。2023年に負傷でシーズンを終えた後、回復過程でかかとが折れて骨密度検査を受けると、結果は「骨粗しょう症直前」だった。彼女は「生理を止めたのは体が警告を送った信号だったという事実により気づいた」と話した。

英国の女性選手769人を対象にした2023年の「女性選手健康報告書」によると、回答者の36%が生理異常や無月経を「運動をたくさんして生じた正常な現象」と考えた。さらに30%は医療スタッフから「活動量が多いから生理がなくても大丈夫だ」という話を聞いたと答えた。オレコ研究所のケリー・マクゴリ教授は「今も選手たちが『生理があれば訓練が足りない』という話を聞く」として「誰も彼女らの体の世話をせず、ただ成果だけを強要している」と批判した。

専門家は生理中断が単純な現象ではなく、「RED-S(運動による相対的エネルギー欠乏症候群)」の代表的な信号だと説明する。摂取エネルギーより消耗エネルギーが多い時に現れるRED-Sは、骨密度の低下、疲労、鉄分欠乏、回復力の減少、睡眠障害、心理的不安までもたらす。長期化する場合、生殖機能の低下と早期骨粗しょう症のリスクも大きくなる。実際の研究によると、生理が中断された高強度ランナーは訓練

欠損日が増え、負傷頻度と疲労感が増加した。生理周期を無視した「男性中心型訓練システム」が女性選手のキャリアを短縮させるわけだ。

米女子サッカー代表チーム（USWNT）は、2019年W杯優勝当時から生理周期の追跡を訓練管理に取り入れた。チェルシーFCの女性チームも同様に、エマ・ヘイズ監督が主導し、選手別の周期によってトレーニングを細分化した。このアプローチは現在、WNBAやNWSLなどに広がっている。これからは国際連盟もRED-Sとホルモンの健康を選手評価基準に含めた。しかし、依然として多数の種目は男性データを基盤にした研究と訓練法をそのまま適用している。マクゴリは「女性ホルモンの変化を変数にするのが不便だ」という理由で、科学は常に『抵抗の少ない道』を選んできた」と指摘した。

最近、ツール・ド・フランス・ファームで準優勝したオランダのデミ・ポーリングは、記者たちの「体重をもっと減らすべきだったのではないか」という質問に断固として答えた。彼女は「私たちは完璧な均衡の中で戦わなければならない」として「2年だけうまくやって終わらせるのではなく、長い間うまくやりたければ私の体を守らなければならない」と答えた。同僚のセドリン・ケルバオールも「私たちはスポーツ選手である前に女性だ。生理を統制したり無視しようというのではなく、その意味を正しく知るべきだ」と強調した。国際サイクル連盟（UCI）はRED-Sと骨密度義務検査を推進中であり、各国選手団でも生理周期教育プログラムを導入しようとする動きが続いている。

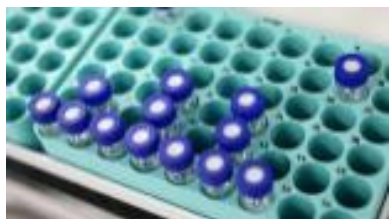
専門家たちは「選手の生理周期は健康の『生体信号』であり、無料で与えられた健康指標」と話す。それでも依然として女性選手たちの体は男性基準の物差しの中で「管理」されている。栄養学者のルネ・マクレガーは「体脂肪率21%が生理維持の最小基準だが、多くの選手たちは競技力向上の名目でそれ以下に押し付ける」として「依然として『女性は痩せてこそ速い』という神話が残っている」と話した。

ユアーズはまだ完全に生理が戻っていない。しかし、骨密度は回復中だ。彼女は「ホルモンと代謝は目に見えない。医師も『いつ回復するか』答えが分からない」とし、「見えない傷が最も長く続く」と述べた。彼女は「私もツール・ド・フランスで優勝したい。誰でもそうだ。しかし、体を失っては何の意味もない」と断固として語った。

出典：<https://sports.news.nate.com/view/20251013n06774>

04 BBC NEWS 2025-10-15

選手たちの「反則」がむしろ推奨される運動大会？



数十年間、競技力向上薬物はスポーツ界を濃く垂れ込めた影だった。世界チャンピオンの中には、その後禁止薬物の使用履歴が明らかになり、メダルと名誉を失った人もいる。

ところが、むしろこのような薬物服用を黙認する水準を越えて、むしろ奨励する大会があればどうだろうか。

「エンハンストゲームズ」の世界へようこそ。

来年5月、米国ラスベガスでは「エンハンストゲームズ」が初めて多種目大会形式で行われる予定だ。薬物検査もないため、制限のない競争を繰り広げることができるわけだ。

同大会を構想したオーストラリア出身の実業家アーロン・ド・スーザは、スポーツ選手たちが自分の身体について自ら決める権利があると信じている。

ドナルド・トランプ米大統領の長男であるドナルド・トランプ・ジュニア、シリコンバレーの億万長者企業家ピーター・ティールなどが参加したベンチャーキャピタルファンドから資金支援を受けた。

このプロジェクトは 2023 年に初めて発表された当時、最大 100 万ドル(約 14 億ウォン)の賞金をかけて世界新記録を樹立する機会として紹介された。

組織委はギリシャ出身の水泳選手クリスティアン・ゴロメエブが 2009 年以後維持されている 50m 自由形記録を更新したと主張したが、「世界水泳連盟」の公式記録には認められなかった。

一方、エンハンストゲームズが実際に開催できるか疑う人も依然として存在する。一部では、これを単なる意図的な挑発、あるいは広報用のパフォーマンスだと批判する人もいる。それなのに、すでに何人かの水泳選手は出場意思を明らかにしている。

その中にはベン・プラウドもいる。彼はこの議論の大会に出場する最初の英国選手だ。

プラウドは BBC「トゥデイ」とのインタビューで、経済的な理由で参加することになったと打ち明けた。

「世界選手権大会で 13 年間優勝してこそもらえる賞金をこの大会一度で稼ぐことができる」ということだ。

予想通り、同大会に多くの人々が激しく反発している。

「世界陸上連盟」のロードコ会長はこのような大会に参加することは「バカなこと」とし、参加する選手たちには長期的な出場停止処分が下されると警告した。

このような大会は結局、選手たちの健康を脅かし、公正なスポーツ精神を傷つけるという批判も続いている。「世界反ドーピング機関(WADA)」は「危険で無責任なプロジェクト」と糾弾した。

また、エンハンストゲームズの公式ウェブサイトで「テストステロン代替療法」の注射剤など、様々な製品を販売している点を指摘する人もいる。このような注射剤の潜在的な副作用としては、気分の変化、うつ病、攻撃性の増加、前立腺肥大などがある。

プラウド選手もまた運動能力向上薬物使用に「大きな危険が伴う」という点を認めた。

「このような薬物には、途方もない社会的汚名が伴います。しかし、明らかなことは、私が何かを服用する義務はまったくないということです。すべては私の選択です。」

「英国水泳協会」は SNS 声明を通じて「プラウド選手のエンハンストゲームズ出場決定の便りに非常に失望する」と明らかにした。

「私たちの協会とパートナーは皆一緒にきれいなスポーツの価値と原則を確固たるものにし、プラウド選手の参加決定を強く批判します。」

「英国スポーツ協会」は自国水泳協会と協力して「緊急にプラウド選手の公共支援金受領資格可否を検討中」とし、アンチドーピング規定違反は英国スポーツ基金支援政策に外れると付け加えた。

しかしエンハンストゲームズ側は来年出場する選手全員は「試合前に広範囲な医療検査を受けることになるだろう」と明らかにした。

合わせて参加した選手たちは「最上位水準の出場料および賞金に加え、新記録樹立時に最大 7 桁に達する追加ボーナス」等、きちんとした財政的補償を受けることになると強調した。

エンハンストゲームズのウェブサイトには「私たちは選手が各分野の最高として当然受けなければならない認定と補償を受けられるよう最善を尽くしている」と話す。

一方、プラウドはBBC「ラジオ5 ライブ」とのインタビューで「引退を数年間悩んできた」と吐露した。

「実は、オリンピックに参加する私たち選手は引退するほど十分なお金を稼ぐことができません。それで私はいつももう少し長く耐えられる方法を探しています。」

出典：<https://www.bbc.com/korean/articles/c78150y1gdjo>

05 スポーツソウル 2025-09-26

いつも口だけで「韓国野球の危機です…」→『大人』が本当の問題だ



野球関係者と「野球発展」をめぐる話を交わすと、必ず一言ずつ言う文章の一つだ。KBOリーグの人気と興行は歴代級に熱い。アマ野球の現実は依然として足踏み状態だ。野球行政家、政界と協会がすべて問題を知っていながらも

「口先だけの対策」だけを繰り返す。悪いといえば悪い大人の姿だ。

今月初めに開かれたU-18野球ワールドカップで韓国は4位に止まった。続いてアジア野球選手権(U-23)代表チームはスーパーラウンド進出に成功したが、24日、台湾と予選で0-10のコールド負けを喫した。アジア強国を決める舞台だが、限界を露呈したわけだ。国内プロ野球が歴代最多観客記録となって人気を謳歌するのとは異なり、おそらく舞台で競争力がますます消える。このまま行けば、成人代表チームも競争で遅れを取るようになる。「危機」という言葉が空しく聞こえない理由だ。

環境が改善しない。代表的には大学進学過程の「学業成績25%規定」だ。「インソウル」の主要大学は内申成績を一定比率反映する。結果的にいくら野球が上手でも、教科成績が足りなければ進学が難しい。

「勉強する運動選手」という趣旨自体は肯定的だ。問題は「休みの日」がないこと。週末には週末リーグを、平日には午前-午後の間ずっと授業を受けて夜間訓練を行う。いくら鋼鉄体力(?)と呼ばれる高校選手でも、成長期の選手たちだ。休むこともできないまま、運動と勉強をすべて抱え込む。現在、高校野球指導者の間で「マスコミと会議で何度も問題を提起しても、上で決定された事案だと言って変わらない」という愚痴が出てくる理由だ。

週末リーグ制度は、学生選手の学習権を保障するという名分で作られた。選手たちが休む暇もなく平日授業と週末競技を並行しなければならない「矛盾」を生んだ。肝心の「休息権」は考慮されないわけだ。形式がもっともらしいだけで、実質的には選手たちの体をさらに酷使させる構造だ。

特に、名門高校チームを除いた相当数の学校は、独自の野球場を備えていない。外部球場を借りて使うことが多い。午後の授業を終えて出ると、運動開始時間がすでに5時だ。夜間照明施設がなく、訓練を2時間以上履行するのは難しい。足りない時間を埋めるために小さな室内練習場で練習を続けるが、投手・打撃訓練ともに限界が明確だ。

ある高校の指導者は「子供たちが勉強するのを防ごうというのではない。下校後に運動できる環境自体が良くない。結局悪循環だけが繰り返される」と訴えた。結局、学習権を保障しようとしたが、運動権まで奪ってしまったわけだ。

KBOの許グヨン総裁は2022年の就任後、「アマチュア野球インフラの拡充」を強調した。大韓野球ソフトボール協会(KBSA)のヤン・ヘヨン会長もやはり「子供たちがより良い環境で運動できるようにする」と誓っ

た。実質的な「行動」はまだだ。KBOであれ、KBSAであれ、政府地方自治体と「スモールトーク」でもこのテーマを交わしたところがあるのか疑問に思うほどだ。

政界も問題だ。子供たちに勉強と運動、二つを全て強要しながら、いざきちんとしたインフラと制度改善は先送りする。今すぐ、外見だけきれいな絵を求める。「韓国野球の未来のために」と声を高める。心の中は焦げている。これをなぜ知らないふりをするのか。学習権を尊重するものの、運動権も守ることができる現実的な解決策が必要だ。きちんとした球場、合理的な日程だ。

今季、KBOリーグは大ヒットを記録した。基盤を支えるアマチュア野球は、そのままではいつか崩れるしかない。韓国野球の根っこをしっかりとしないと、今の人気は砂の城に過ぎない。大人たちの変化なしには、今日も足踏み状態の韓国野球だ。

出典：<https://sports.news.nate.com/view/20250926n00099>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>